

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三反畑8-1		
自己評価作成日	平成31年3月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JN0=2673000127&amp;SVC=0001096&amp;B.JN=00&amp;OC=01">http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JN0=2673000127&amp;SVC=0001096&amp;B.JN=00&amp;OC=01</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	〒612-8243 京都市伏見区久我御旅町3-20		
訪問調査日	平成31年4月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

元気で日々を過ごしてほしいとの思いを込めて作った料理は形のあるまま食べられる人が減り、お粥やミキサーにする人が増えている。ミキサーの人にも自分の力を活かしておいしく食べてほしいので、日々の体調や食材によって、その日その人にあったミキサーのかけ方やトロミの付け方をして提供している。それをするためには職員一人一人の観察力とチームでの情報交換を大切にしている。お一人おひとりのADLが違いう中、排泄介助や移動にも時間がかかる中で個別にかかわれる時間を作ってそばで寄り添ったり、入居者同士で楽しめる力を見守ったり、その時々寄り添い方を考えながら誰もが見守られている安心感をもって過ごして頂けるように努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・2002年に設立された「西山の郷」は、阪急長岡天神駅から車で約5分、JR長岡京駅から車で約10分ののどかな住宅街にある3ユニットからなるグループホームです。視界に西山連峰が広がる自然豊かな環境で、周辺には、きりしまつづじで有名な長岡天満宮、紅葉が美しい光明寺など、歴史ある寺社仏閣や公園などがあり、四季折々の自然を楽しむ外出を企画されています。  
 ・グループホーム西山の郷は、地域との関係も積み重ねを経て深まっています。グループホームに多機能型が求められるなか、2016年から3階で共用型デイサービスを開始し、毎日3名の方を受け入れて、地域における新たな役割を果たしておられます。  
 ・開設から17年目となり、高齢化・重度化をむかえるなか、職員は日常的に看護職員から医療的ケアを学び医療連携を強化して、医療面・介護面の充実を図りながら利用者本位のケアに努めておられます。看取りの支援においても、その方らしい一日を過ごしていただくために、共に寄り添いながら歩む姿勢をチームで大切にされています。  
 ・事業所の特徴ともいえる新鮮な食材を用いて調理された季節感のある食事は、入居者の方の体調管理につながると同時に大きな楽しみになっています。個々の体調に合わせた様々な形態を工夫して、食べていただく配慮を重ねるとともに、職員が入居者の方に寄り添い共に食事を楽しむ時間を大切にされています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>・毎日朝礼にて理念を唱和している。その後各ユニット毎に入居者状況を伝えてもらい、お一人お一人がそれぞれの体調や想いに沿った一日が過ごせるよう話し合う時間を持っている。書道の会や外食、訪問診療の予定など、その日の行事の時間や場所などを確認したり、気分が落ち着かない人にはその気持ちを閉じ込めずに、全てのスタッフで見守れる体制を考えている。</p> <p>・ユニット内ではお一人お一人に挨拶をする。お名前を呼びかけることでしっかりその方と向かい合うことができ、笑顔を頂くことができている。</p> <p>・医療面に関してもかかりつけ医を継続してもらい、地域の中で安心して生活して頂いている。</p> <p>・初詣やお花見等、地域の神社などに行き、馴染みの場所を大切にしている。運営推進会議での話題やご近所の方から情報を得ながら、お祭りなど地域の行事に参加できる機会や地域の方との交流を大切にしている。また、書道は書き初め展に出品する機会をボランティアの先生が作って下さったり生活に張りを頂いている。</p> <p>・幼稚園児の訪問や大正琴、話し相手のボランティア、建物の周囲をきれいに心配りをして下さる方々に地域の温かみを感じている。</p> <p>・誕生日にはお一人ずつお祝いの会をしている。お一人お一人が大切な存在であり、生きてこられた年月、今ここにおられることに感謝して職員全員でお祝いしている。</p>	<p>・西山の郷の理念として、「個人の尊厳を大切に」、「画一性、おしつけの排除」、「地域社会との融合を図る」を掲げ、毎日朝礼にて理念を唱和して職員間で意識を高めている。</p> <p>・利用者の尊厳の尊重を第一として、できることを大切にするケアの実現を心がけている。</p> <p>・利用者一人ひとりのリズムを大切に寄り添う姿勢が全職員に徹底され、押し付けしないで各々にあった声掛けをしている。</p> <p>・高齢化・重度化が進み医療的配慮が必要な利用者が増えている。そのような方と新しく入居されたお元気な方との関わりにも配慮しながら、入居者同志のふれあいを大切に、見守りながら支援している。</p> <p>・2016年から3階で共用型デイサービスを開始し、1日に3名までの方を受け入れて入居者と交流されている。グループホームに多機能型が求められる現在、地域における新たな役割を果たしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の方との挨拶を大切にしている。また、散歩をしているときなど地域の方から声を掛けていただくこともあり暖かい気持ちを頂いている。</li> <li>・ボランティアのより季節を味わえる作物や四季折々のお花を育てて頂いている。</li> <li>・中学生には体験学習を通じて認知症を抱える人とのかわりの理解してもらえらる機会がもてている。</li> <li>・グループホームの夏祭りの盆踊りには、地域のボランティアが踊りに参加頂いたり、近隣の方々にお知らせをして参加を呼びかけ、交流の機会となっている。</li> <li>・地域の秋祭りに話子供神輿や獅子舞がきてくれて、入居者の喜びとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開設から17周年をむかえ、地域との関係は年々深まっている。2016年から3階のユニットで開始した共用型デイサービスを地域の方が利用されることで、多機能型を求められるグループホームとして役割を果たしている。</li> <li>・日々の散歩や農園作業の時、地域の方と気軽に挨拶したり会話する関係で、季節の農作物やお花をいただくこともあり、地域の一員であるという意識を常に持っている。</li> <li>・夏祭り等の事業所行事には地域住民の方々に参加を呼びかけている。また、地域の秋祭りでは、子ども神輿や獅子舞の訪問が利用者の大きな楽しみになっている。</li> <li>・定期的に近隣の幼稚園・中学校との交流の機会がある。また、書道、大正琴や三線の演奏、傾聴等のボランティアの来訪があり、中学生の職業体験も継続して受け入れている。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の体験学習受入の際には認知症について説明した後で実習に入ってもらい、利用者との交流を通じて、認知症の理解と人としての大切さを感じてもらえるような取組みを実施している。</li> <li>・見学者の対応をしたり、認知症を抱える方のご家族の思いを傾聴している。</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の状況や対応など、ユニット毎に報告している。ホーム内での行事の取り組みなどについても話しをしている。</li> <li>・地域の行事の情報を頂き、できるだけ参加して地域の皆さんとの交流の機会にしている。</li> <li>・今年度からは拘束・虐待防止についても話し合いを持ち、ご家族の対場からもご意見を頂いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議には、入居者のご家族・民生委員・高齢介護課・地域包括支援センター等に加えて、地域住民代表の方の参加があり、地域の情報を得る機会になっている。毎回、ホームからの報告、質疑応答を軸に参加者から具体的な助言、意見、要望を得てサービス向上に反映させている。</li> <li>・家族からの意見・要望については、その内容や経緯等について丁寧に報告している。</li> <li>・会議録は、家族に広報誌「西山の郷便り」に議事録から必要事項を抜粋して報告している。</li> </ul>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議には高齢介護課・地域包括支援センター・民生委員等、近隣住民の方、家族の参加があり、入居者の状況や状態に応じて対応の工夫や日々のとりくみなどについて話しをしている。</li> <li>・地域のグループホーム連絡会ではグループホーム間での連携と共に行政や地域包括支援センターからの参加もあり、地域との連携を深める機会となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢介護課・地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、市町村との情報交換や具体的なアドバイスを得る機会となっている。</li> <li>・長岡京市や乙訓圏域の福祉プロジェクト等にも関わっており、市町村とは普段から協力関係を構築して、地域ケアについて情報共有している。</li> </ul>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の施錠はしていない。各階のフロア毎の移動も自由に出来ている。毎日の朝礼で状態を報告、外に出る心配のある方については事務所の職員も含めた見守り態勢を取っている。お一人お一人の気持ちと行動を素早く確認できるようにしつつ、常に所在確認を声を掛け合いながら見守っている。</li> <li>・車椅子の方も増え、歩行できる方も付き添いが必要であるが、出来るだけ早く対応して、不自由さを感じられないように努めている。</li> <li>・ふらつきや転倒の危険がある方など、「ヒヤリはっ」と記入、行動把握することで制限しないような見守りが出来るよう努めている。</li> <li>・ご家族にも身体状態をお伝えし、転倒などのリスクについてもご理解いただいたうえでケアに当たっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化、重度化による機能低下で転倒の危険性が高い方が増えて、骨折等を予防する目的でセンサーを利用することもある。一人ひとりの体調に合わせて、見守り方や支援方法について見直し、柔軟に対応しながら安全を確保する努力を重ねている。</li> <li>・運営推進会議でも身体拘束をしないケアについて協議をし、家族から意見をいただいている。日中は玄関等の施錠はせず、各階の移動も自由にできるようにしている。外出の希望があれば、できる限り行動を制限せず思いに寄り添い出かけられるようにして、利用者の精神面の安定を図っている。</li> <li>・スピーチロック(言葉による拘束)についても、研修を行い、「入居者の行動を抑制するような言葉」を職員同士で注意し合っている。</li> </ul>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間でも意識を高めてケアにあたっている。</li> <li>・ユニット会議においても発表者を決めて研修を行っており、職員同士でも言葉遣いなど疑問に思ったことや気付いた際は、互いに声を掛けあえる関係作りに努めている。</li> <li>・常に入居者の視点に立って考える姿勢を大切にしている。</li> <li>・内服薬服用の影響にて内出血のしやすい方もあるので、状態把握に努め、医師との連携とご家族への報告を行っていく。</li> </ul>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を利用されている方が2名おられる。 ・日常生活自立支援制度や成年後見制度については、外部研修や内部研修を通じて学びを深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に説明、納得していただいている。重度化した際の指針についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族、入居者の言及された事の真意を汲むべき姿勢に職員一同努めている。 ・面会時に日常の様子を伝えている。また、ご意見ご要望を聞くようにしている。それらは記録や申し送りで職員が情報共有し、また、援助計画にも盛り込んでいる。開設当初からの職員もおり、ご家族にとっても安心して頂いている。 ・日常の面会以外にも運営推進会議にて、ご家族の意見を聴く機会がある。会議には行政より参加もあるので、意見交換を行い運営に反映させることが出来るよう努めている。またご家族向けの広報誌にて入居者やご家族のご意見やご要望について話し合った結果を報告している。	・面会時など日頃から家族とのコミュニケーションを密にとり、入居者の日常の様子伝えている。また、家族対応は主にユニットリーダーが行っているが、日常の様子は全職員が家族に伝えられるように一人一人の状態や様子の把握に努めている。 ・面会時や運営推進会議でいただいた家族の意見は、一つずつ丁寧に対応し運営に反映させている。特に健康面や看取りに関する家族の不安に対しては、必要に応じて医師から説明する機会を設けて、看護職員とも連携して家族の気持ちに寄り添い家族が安心して見取ることができる支援にも努めている。	
		代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ユニット会議等で出た職員の意見や提案を、リーダー会議を通じて管理者に伝える事が出来る。 ・個人面談の機会もあつたり管理者がそばにいますので、いつでも意見や提案が出来る環境にある。	・毎月開催されるユニット会議には、非常勤職員も含めて全職員が参加して、意見や提案ができる仕組みを整備している。 ・管理者は、職員と共に現場に入り、日常的に声を掛けて信頼関係を築くと共に、意見や提案を聞いて運営に反映している。 ・毎年、個人目標の自己チェックを基にホーム長との個人面談の機会があり、意見や希望を話しやすい体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福利厚生として、職員にポイントが支給され、買い物、旅行などに使用している。</li> <li>・「自己申告書」に挙げた目標などに向けての資格習得へのサポートがあり、意欲向上に繋がっている。</li> <li>・職場レク等、食事会等を通じて職員間の親睦を深める機会が設けられている。</li> <li>・勤務希望も聞きながら仕事と家庭・趣味などの両立ができるように配慮している。</li> </ul>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修には個人で参加する場合もあるが施設として参加する場合もある。参加出来る様に勤務体制を調整している。</li> <li>・ユニット会議では、毎月の自己研修・研修の報告の分かち合い等で日常へのケアに活かすように努める。</li> <li>・職員をスキルマップを基本にしながらOJTの中で育成している。新人職員の意見にも耳を傾けて業務を分かり易くしたり、意見を尊重してやりがいにつなげている。</li> <li>・看護職員による医療的ケアや食事介助の方法やベッド上での介助など重度化に向けた研修も行い、スキルアップに繋げている。また、看取り期にはカンファをして統一ケアに繋げている。</li> <li>・地域のリハビリ研修でポジショニングの研修はじょくそうの予防に役立っている。</li> <li>・夏祭りには実行委員会を作っている。行事を安全に行うために、利用者お一人お一人の状態の把握や楽しみを引き出すことが必要となる。職員間の情報の共有が連携に繋がりが、毎日のケアにも活かされている。</li> <li>・京都府認知症実践者研修について、就業年数や経験に応じて参加している。</li> <li>・法人内ではリーダー研修や拠点別研修があり、事例検討やアセスメントについてなど学べる機会がある。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乙訓地区グループホーム連絡会があり、意見交換や情報の共有をしている。</li> <li>・夏祭りなどで交流できるグループホームが増えて、施設見学ができたり行事の取り組み方なども勉強になったり、刺激になったりしている。</li> <li>・当社の全社研修に施設長研修、リーダー研修、スタッフ研修があり、階層ごとの交流がある。</li> </ul>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人を尊重しプライドを傷つけない言葉がけと見守りに注意している。まず安心してもらうためにどの距離から、どんな声で、どんな大ききで話しかけたらその人にとって心地よいかを探りながら寄り添っていく。居室・トイレなど場所がわからずに不安に思うときは付き添い安心感に繋げる。</li> <li>・話ができる人にはこれまでの生活習慣等をご本人から聞いたり、行動より察したりして早い時期に慣れて頂けるように努めている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族の状況も把握し、ご本人とご家族の思いと要望を受け止めて、援助計画に反映してケアを実践している。</li> <li>・少しずつ慣れていかれている様子やお元気で過ごされている様子を伝えて安心して頂く。新たな要望が言い易い関係作りと信頼関係を築くことに努めている。</li> </ul>		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族として心配している事、して欲しい事は嚴重に受け止めている。</li> <li>・ご本人の好む事、興味などを家族に情報としていただき、これまでに継続してきたことが変わらずに行えるよう支援している。</li> <li>・行動が把握できず転倒の危険の大きい人にはより注意して転倒を予防している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下肢筋力の低下があり立位を保つことは難しくなっているが、座って出来ることは積極的にして頂いている。</li> <li>・洗濯物をたたむことが生活の中で普通のこととして皆さんでされている。毎日の9名分の洗濯物も皆さんの手で片付いていくのでお互い感謝している。</li> <li>・テーブルでケーキのデコレーションをしたりすることを楽しみにされておられる方もあり、食べることを通じて楽しい関わりを増やしている</li> <li>・開設当初からおられる方や10年以上おられるかたも複数名おられ、新しい方も含め、そこに変わらずにおられることが利用者同士にとっても職員にとっても支え、支えられる関係になっている。</li> </ul>		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調についてはもとより、認知症の進行や行動の変化についても伝えて共に見守る関係をつくっている。家族の心配などにも丁寧に説明することで安心に繋げている。家族の面会により表情が明るくなったり安心されることを伝えている。家族の理解と信頼関係が築かれるように、面会の機会が増えるように努めている。</li> <li>・ご家族対応で受診される方もあり、また、天気の良い日は車いすを押して散歩に出られる方もあり、共に支える関係づくりをしている。</li> </ul>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居年数が長くなり、またご年齢を重ねることで、馴染みの人や場所が少なくなる寂しさがある。面会時に来てくださった時は、和やかに過ごしいただくよう環境を整えるよう配慮している。</li> <li>・年賀状を出されることはなくなったが、届いた年賀状に喜ばれて大事にされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の妻が3階ユニットの共用デイサービスを利用されているケースがある。</li> <li>・ホームには家族が来訪することが多く、知人友人が訪れることもある。</li> <li>・事業所の行事には利用者の家族、友人などに参加を呼び掛けている。</li> <li>・本人の意向を尊重して、馴染みの人や場所との関係性が継続に繋がる支援はできる限り協力している。</li> </ul>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員はお一人お一人の個性を大切にしながら他者同士の関係作りの橋渡しをしている。</li> <li>・他者の好みや得意な事など他者同士を紹介しあったり、共通の話題を見つけて会話を繋げている。</li> <li>・あるきっかけから入居者だけでトランプができることがわかり、入居者同士が助け合いながらそれを楽しんでいるのを見守っている。また、かるた、風船バレーなどレクリエーションを通じて笑顔の輪を広げている。</li> <li>・書道は互いの力を認め合い、励ましにもなっている。</li> <li>・食事の際は職員も共に食べ会話の橋渡しを行い、皆で和やかな雰囲気ですべてが出来る。</li> </ul>		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・亡くなられた方の家族と会った時には思い出話をしたりして、懐かしく時間を過ごす時もある。</li> </ul>		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く起きられる方は朝食までにお茶を飲みながら新聞を読んでおられる。10時のコーヒータイムはほっと一息つく時間となっている。</li> <li>・年齢や体調などに無理のないように食事・休息・睡眠・排泄などに工夫や介助をしてお一人お一人の生活リズムにあわせたケアをしている。それぞれの生活リズムで過ごしていただきながらおやつ後は皆さんが集える時間になっていて、会話の橋渡しをして盛り上げたり、体操・風船バレー・歌などを楽しんでいる。</li> <li>・トランプは「退屈やな。頭使わなあかん。」と他者を誘い、朝からも楽しませている。個人の楽しみとしては新聞・雑誌・相撲観戦などがある。「NHKにしてね」とニュースを見られる方や夜8時以降テレビで時代劇をみるのを楽しみにしている方もある。</li> <li>・天気の良い日は庭で日向ぼっこをしたり、お地藏さんまでの散歩を楽しみにしている人もあり、季節の変化を楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく入居された方については、センター方式の様式を活用し、以前からの方については独自の様式とセンター方式の様式を併用しながら、思いや意向の把握に努めている。</li> <li>・意向の表出が困難な方の気持ちを深く思いやる姿勢が職員間で大切にされ、何気ない会話・表情・仕草から、声にならない気持ちを汲み取る意識を常に持つようにしている。</li> <li>・寂しさや不安をこぼされた時には、寄り添い側にいて居室でゆっくり話すなど、丁寧な対応に心がけている。</li> <li>・個別の生活リズムに合った寄り添い方を検討し、各職員の気づきを申し送りやユニット会議において共有し検討するようにしている。</li> <li>・家族から可能な限り情報をいただきながら、入居者の希望を聞き取り、日々の生活や外食、外出等の企画に反映させて実行している。</li> </ul>	
----	-----	--	---	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター方式のシートを利用して、ご家族に生活歴、習慣、環境、好み等の情報提供のお願いをしている。面会時にもお話を伺い把握に努める。またケアマネジャーから情報を得ることもでき、参考としている。</li> <li>・日々の関わりの中でもその人となりを引き出せるよう会話を大切に、またその行動からも情報を読み取り、ケースに記録していく。</li> <li>・各職員が知り得た情報はユニット会議で共有していき、ご本人の全体像に繋げていく。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼では心配のある入居者の体調・心身状態を伝え、施設全体で見守っている。ユニット内での申し送りは全員の体調や一日の過ごし方を申し送っている。</li> <li>・特に転倒リスクの高い人については気持ちのありようや状態の把握に努め、安全に気をつけている。</li> <li>・食事の仕方やむせがあったかどうか申し送り、提供方法の確認をしている。</li> <li>・夜間の入眠状態、体調や便秘等が気持ちに影響していないか等も考えながら、1日の過ごし方を考えていく。体調や体力をみて、休息を取りながら食事を楽しんだり会話を楽しむ時間を持っている。</li> <li>・1日をどう過ごしたいかをご本人に聞いて、共に組み立てる事も出来る。天気の良い日には散歩や外気浴にて気分転換をしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニット会議は月1回開催し、お一人お一人のモニタリングを行っている。課題を抽出し、アセスメントをして具体的なプランの内容を作成している。</li> <li>・スタッフ間では常にどのような関わりがよいのかを話しをしていて申し送ったり、業務日誌に記録している。</li> <li>・心身の状態についてはかかりつけ医や看護職員と相談してケアに当たっている。</li> <li>・ご家族に状態を伝えたり、相談した時に今までの生活暦の中からヒントをいただけるときもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に本人や家族の意向を基に詳細なアセスメントを行い「生活援助計画」を作成している。</li> <li>・「生活援助計画」の様式は、①「困っていることは何」(解決すべき課題)、②「どうなってほしいか」(短期目標)、③「何をどうするか」(具体的計画内容)、④「そしてどうなりましたか」(評価)、という項目に分けられ、本人や家族にとって解りやすい配慮がみられる。</li> <li>・毎月1回開催するユニット会議は、事務職員がユニットの見守りをして全職員が参加する体制をとっている。その際、カンファレンスをしてモニタリングを実施している。</li> <li>・体調の変化等により援助計画の変更が必要な際は、随時ミニカンファレンスを行い情報共有している。</li> <li>・医療面については、看護職員から医療的配慮を学び、観察を丁寧に行っている。また、かかりつけ医と連携を密にして指示のもと見守りを行っている。</li> </ul>	モニタリングの記録は丁寧にされていますが、生活援助計画のどの項目についての評価や見直しかが明確になるように、モニタリングの方法や記載のさらなる工夫をされてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お一人お一人の日々の記録はD-4シートに記録している。特に変化のあったことや注意すべきことは業務日誌に記載し、意識して観察している。</li> <li>・記録と同時に申し送りは職員の連携と実践につながっている。</li> <li>・体調に変化が生じた時は観察に必要な項目を別表にして記入している。普段から排尿・排便表に記入して体調の把握に努めている。</li> <li>・特別な変化、入退院があった時などはその時点で介護計画を変更している。家族の意向、看護師や主治医の視点をもらいながら、本人本位の計画に努めている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当所では、居宅介護支援事業所と訪問介護サービス事業所があり、ホームヘルパー、ケアマネジャーも在籍し、在宅での工夫や他施設の対応の仕方を教えてもらったりすることができる。利用者の状況に伴い、歩行器、徘徊防止センサー等福祉器具の情報提供、導入使用に繋げている。</li> <li>・オムツフィッターの資格を持った人があるので、その人にあつたパッドの種類や使用方法などを相談して気持ちのよい排泄に繋げている。</li> </ul>	/	/	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園児の訪問や大正琴の演奏など地域の方々に協力を頂き充実した生活の支援につなげている。また、年2回の避難訓練における消防との連携は安心安全への協働となっている。</li> <li>・月に一回、書道のボランティアの先生が来られる。書初め展では今年も入賞者があり、ご本人の励みになっている。</li> <li>・畑で野菜作りをしてくれる人もあり季節の野菜が食卓にのぼっている。また、サツマイモができる秋は芋ほりを楽しむことができている。</li> <li>・毎週月曜日に話し相手のボランティアが来られ、皆さんの楽しみになっている。</li> </ul>	/			/
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の受診体制が整備され、安心して訪問診療を受けられるている。</li> <li>・たけフロアでは6名のかかりつけ医が来られている。またホーム全体では11名のかかりつけ医に来て頂いており、24時間対応可能となっている。</li> <li>・診療の記録は「在宅療養手帳」に記入される。これには看護師や職員も気付きを書いている。一人ひとり医師会が登録したご本人の手帳があり、かかりつけ医、看護師、職員が連携して体調の見守りをしている。</li> <li>・必要に応じてかかりつけ医の他に歯科医、地域の専門医の訪問診療と連携がある。</li> <li>・看取りの際には密な連携を取ることが出来る。</li> </ul>				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤看護師が1週間に1回来て体調の見守りをしている。</li> <li>・必要時に医師への連絡もしてもらったり、相談、アドバイスをもらいながらケアに活かしている。食事介助や清潔保持などについて研修してもらいスキルアップに繋げている。</li> <li>・かかりつけ医の指示により訪問看護師が入ることもあり、看取り時には密な連携を取ることができ、ご本人の安楽とご家族の安心に繋げている。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院された利用者には、退院後の生活がよりスムーズになっていただけるよう、安心に繋げるよう面会に行っている。</li> <li>・ご家族にも連絡を取り状態の把握に努める。</li> <li>・退院支援の看護師やソーシャルワーカーなどと連携し、現状の確認や退院後のケアを含めて情報の交換をしている。</li> <li>・食事摂取の状態に心配がある人は病院に行き食べ方を見に行ったり介助の方法を聞きに行ったりしている。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご入居の時にご家族の意向の把握に努めているが体重の急な減少や体力の低下などが見られた時には、ご家族と共にかかりつけ医から状態説明を聞き、本人や家族の意向に添う。</li> <li>・西山の郷で看取りを希望される時は看取りの指針を説明し、文書でターミナル時の対応を確認している。</li> <li>・ご家族の協力や医療職との連携により、人生の結びの時間を最後までその方の尊厳を大切にできるケアに努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居の段階で「重度化した場合の対応にかかわる指針及び同意書」に基づき、家族に入居時、事業所の重度化や終末期の対応方針を説明して了解を得ている。</li> <li>・本人、家族の意向と、主治医の指示のもと、職員も看護職員による研修によってその人に応じた終末を支えられるように研修を重ねている。</li> <li>・家族に対して、医師、看護師、職員が時期に応じて必要な説明をして、不安を取り除き、家族支援に努めている。</li> </ul>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急マニュアルを常時スタッフルームに掲げてあり、職員同士で確認している。また、他ユニットの方で緊急事態発生時の様子も朝礼等で共有してもらい応急手当、初期対応への自覚が日常的にも深められるようにしている。</li> <li>・救命講習も受けるよう努めている。</li> <li>・救急時には緊急持ち出し書類として備えられている。(薬や既往歴、現病歴等入居者の情報が纏められている)</li> <li>・迅速に連絡が出来るように連絡網を確認している。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害マニュアルの確認と共に消防署の協力を得て避難訓練を毎年2回実施している。新人職員には消火器の扱い方も含めて実施をしている。</li> <li>・入居者お一人おひとりの状況に合わせた避難の方法などを確認している。施設管理者が、地域に協力をはたらきかけている。</li> <li>・避難の妨げや火災の防止のために必要機器を点検している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震・火災を想定した昼間・夜間の訓練を消防署の協力を得て毎年2回実施している。</li> <li>・災害時の連絡網を整備して確認すると同時に、通報の仕方について職員間で確認している。</li> <li>・備蓄として水・食料などを準備して、随時入れ替えを行っている。</li> </ul>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声をかけるときにはお名前を呼びかけてから話しかけるなど気持ちを込めて声かけをしている。</li> <li>・お一人お一人の誇りやプライバシーを大切に、わかりやすい言葉で伝えたり、対応を心がけている。</li> <li>・排泄時や入浴時等の羞恥心等にも配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者を尊重し、押し付けではなく、できることを一人ひとりのペースに合わせて生活が維持できるように対応している。</li> <li>・職員は利用者の尊厳に配慮した対応と、やわらかく丁寧な言葉かけをしている。また、プライバシーの研修を繰り返し実施して積極的に学び、プライバシー確保に努めている。</li> </ul>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけ時はゆっくりと低めの声で話しかけたり、介助時も行動を伝える工夫を実践することによって、入居者の理解と協力の上行よう努めている。</li> <li>・お一人お一人の気持ちや想いを適時、その方の表現方法から感じ取れるよう心掛けている。</li> <li>・何かを選んだり伝えようとする言葉を探している時を静かに待ち、その思いや本人の希望を表現できるよう努める。</li> <li>・意思疎通の難しくなっておられた方にも声をかけ続けることで表情がよくなり、笑顔も増えている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調や天候なども考慮しながら散歩やレクリエーションへの参加、入浴など希望に沿う事を優先している。</li> <li>・食事に時間がかかる方もあり、その方のペースで食べてもらえるよう見守っている。</li> <li>・身体を休める時間が必要な方もおり、気持ちと身体のバランスをとりながらお一人お一人の生活ペースを大切にしている。</li> <li>・1日のどこかの時間で入居者同士が集える時間を持てるように工夫しており、今はおやつ後の時間がその時間になっている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や季節にあった服装ができるよう気を付けている。</li> <li>・誕生日に似合いそうな洋服を選んでプレゼントすることもある。</li> <li>・理美容師の訪問があり、その方に似合ったカットをしてもらっている。</li> <li>・起床時や入浴時などには何を着るかを一緒に選んでいる。</li> <li>・衣服の汚れや着衣の乱れには速やかに対応できるように、常に気配りを行うように努めている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各階に台所があり、出汁の香り漂うリビングで食事を楽しみにされている。夕方になると台所に来て調理をしている職員に話かけながら食事ができるのを待っていたり、テーブルを拭いて配膳の準備をしてくれる人がいる。</li> <li>・介助が必要な方も増えているが、傍に寄り添って、和やかな雰囲気ですら食事をしてもらっている。</li> <li>・おはぎなどの座っていてもできるものは一緒に丸めたりしておやつを楽しんでいる。</li> <li>・お好み食ができて、食べたいものを希望することもできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の食事を大切に考え、新鮮な季節感のある食材を用いて、各ユニットで調理している。</li> <li>・調理を主な業務とする職員も配置している。丁寧に出汁をとって調理された食事は、事業所の特徴で、入居者の体調管理につながり、大きな楽しみになり、家族アンケートでも好評である。</li> <li>・嚥下や咀嚼の難しくなった人へは様々な形態を工夫をして、少しでも飲食できるように配慮されている。</li> <li>・誕生日や行事の際には入居者のリクエストで献立を決めたり、おやつ作りを楽しんだりしている。</li> <li>・同じ食卓を囲む食事の時間を大切に考え、職員も談笑しながら一緒に食事を摂り、介助が必要な利用者の隣でさりげない声かけと介助をしている。</li> </ul>	
41		○食事を楽しむことのできる支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人一人の状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量のチェックにより、食欲や体調の変化にも注意している。</li> <li>・ミキサー食やとろみをつけたり、お粥を提供している方もあるが、一律にミキサーをかけるのではなく、お一人お一人の状態にあわせて固さの調節を行い、野菜などでも柔らかい煮物はそのまま提供したり、見た目にも配慮して満足感に繋げている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食後、洗面所にて義歯洗浄、うがいを促して口腔の清潔を保っている。うがいのできない人や寝たきりの人にはスポンジブラシを使用して行っている。</li> <li>・食べる楽しみが長く続くよう義歯の状態にも注意して不具合があれば歯科受診をして調整してもらっている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事前に声をかけたりトイレに誘導することで失禁が減っている。</li> <li>・尿意・便意の訴えがあればできるだけすぐにトイレに案内しスムーズな排泄に繋がっている。訴えのできない方はお一人お一人のしぐさの観察や排泄パターンに応じたトイレの声掛けを行い、トイレでの排泄が行えるように支援している。</li> <li>・下肢筋力が低下している方には二人介助でできるだけ便座に座ってもらい、気持ちの良い自立に向けた排尿・排便を支援している。</li> <li>・夜間に尿量の多い方には声掛けをしてトイレに誘導している。また、起きてしまうと再入眠ができない人にはその方に合うパッドを選んで使用し、気持ちの良い入眠に繋がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表はスタッフルームの中など目立たないところに設置されてプライバシーに配慮しながら個々の状況を把握して援助されている。新しくはない施設だが、施設内に臭気は感じられず、こまめに支援されていることが伺える。</li> <li>・利用者の排泄パターンを把握し、様子を見ながら時間より少し前にトイレ誘導するなど工夫することで、排泄の失敗が少なくなり、リハビリパンツから布パンツに変更できた方がある。</li> <li>・夜間は睡眠を妨げないようにパットを利用するなど、個々に合わせた細やかな支援をしている。また、水分量を把握するようにしている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化と共に自立排便の困難な方も増えて、かかりつけ医より緩下剤使用の方も多くなっている。緩下剤を使用していても出ない時があるので排便の有無を記録して様子観察している。</li> <li>・水分摂取を促し、腸内細菌を整えるためにヨーグルトなどの乳製品を多く取り入れている。</li> <li>・入浴時に体を温めたり腹部マッサージをして腸の動きを助けたり、適度に体を動かす等により便秘を予防している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間や順番などの決まりはなく、毎日が入浴可能日になっている。入りたい時に入れるように気持ちを大切にしている。</li> <li>・排泄状況、体調への配慮をしながら、身体の清潔保持、心身のリフレッシュを大切にしている。</li> <li>・入浴時は羞恥心への配慮をしながら入居者とのコミュニケーションを楽しむ場ともなっている。</li> <li>・シャワー浴をする時は足浴をしながら全身が温まるよう工夫している。</li> <li>・階により浴室の設備がちがうので状態に合わせた階の浴室を使用することができる。</li> <li>・スキンケアにも気を付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の希望に添えるよう、希望時間帯の入浴に努め、シャワー浴や足浴などその人の状況に合わせて入浴を楽しめるようにしている。</li> <li>・入浴は、利用者が希望すればいつでも可能である。</li> <li>・1階フロアは中型浴槽、2階は車椅子の方も入れる浴槽、3階はユニットバス型浴槽で、身体状況に合わせた安全な入浴に配慮している。</li> </ul>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥による痒みのある人にはローションを塗って安眠に繋げている。</li> <li>・室温・湿度にも注意をしている。</li> <li>・腰痛の方や下肢の浮腫を予防するために日中に休息を取ってもらっている方もある。</li> <li>・夜間にトイレに行かれる方には誘導して気持ちのよい入眠に繋げている。</li> <li>・夜、ゆっくりテレビを見て気持ちを落ち着けてから眠る方もある。</li> <li>・暗い方が落ち着いて寝られる人には安全の為足元灯を点けている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お一人お一人の持病と服薬の目的・副作用等を理解してスタッフが管理を行っている。</li> <li>・ご自身の服用している薬について聞かれた時はきちんと説明し、理解して服用して頂いている。</li> <li>・定期薬以外に服用する風邪薬等は、改善等症状をみながらかかりつけ医の指示を確認していく。</li> <li>・服薬の間違いがないように処方箋管理表及び服薬管理表の記入を徹底している。</li> </ul>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯物たたみは多くの方がなさって下さっている。</li> <li>・夏祭りや元日などにはノンアルコールビールやお酒を飲んで楽しまれた。お好み焼きの献立の時もノンアルコールビールで雰囲気を楽しんだ。</li> <li>・書道の会は一人一人が作品に取り組むと共に、互いを認めたり、励ましあいてより良い作品を作っている。</li> <li>・おはぎなどの手作りのおやつを共に楽しんでいる。</li> <li>・キーボードで音楽を楽しむ方もある。</li> <li>・気候に応じて、近回りの散歩、ドライブ、ガーデンティータイムやランチの時間など、外気に触れる喜びと共に気分転換を図っている。外食にでることもある。</li> <li>・自由に他の階の方と交流することができ、気の合う人と楽しい時間を過ごすこともある。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢とともに下肢筋力が低下し、歩ける人も距離が短くなったり、歩行器や車いすを使用する人が増えて、皆が同じ時に同じ場所に行けないこともあり、外出の機会が減っているが、庭のテーブルでゆっくりとくつろぎながらお茶の時間が持てるように、また、お地藏さんまでの散歩を日常的に行えるように努めている。</li> <li>・季節は大事にしたいと、春は花見や霧島つつじを見に長岡天満宮に出かけた。5月はこいのぼりを見に行ったり、秋はコスモス畑への散歩を楽しみ、紅葉狩りにも出かけた。近くのファミリーレストランにも出かけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は散歩を日課にされている方も多くあった。現在は高齢化・重度化で散歩ができる方が限られてきているが、庭での外気浴や近隣の散歩をするように努めている。</li> <li>・自然が残る住宅地で、畑もあり季節が感じられる事業所の周囲は田畑などが残るのどかな住宅街で、一人ひとりの気持ちや健康状態に合わせ、散歩を楽しんでいる。</li> <li>・地域に歴史ある寺社仏閣や、季節ごとの自然が楽しめる名所があり、梅見や花見など様々な機会をつくっている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在はお金の管理が個人的には出来なくなり、買い物代金などは家族請求となっているが、希望があれば買い物に行ける環境を作っている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状を書かれた人はなかったが、頂かれた年賀状はご家族にもお伝えし、先方の健康を喜ばれたりした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が利用者にとって、不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関は外来者を迎える場であり、花を飾ったり季節の飾りをおいたりして気持ちのよい空間を心がけている。</li> <li>・台所からは料理をする音が聞こえ、匂いから「今日の献立は何か」と想像する楽しみがある。</li> <li>・居間・兼食堂はスペース的には狭さを感じることがあるが、テーブルの配置を工夫したり等、共有空間に暖かさや居心地のよさを感じさせている。</li> <li>・南側のソファに座って暖かい日差しを浴びながら好きなテレビを見ながらくつろぐこともできる。</li> <li>・家族の面会の際はリビング、居室だけでなく、相談室も利用して頂き会話を楽しんで頂いている。</li> <li>・個浴においてゆったりと入浴を楽しむことができ、職員は介助を通して入居者お一人おひとり一対一で親しくコミュニケーションをとることのできる場となっている。</li> <li>・トイレ使用後は臭いに気を付け換気や除染の対応等、清潔に保つよう職員全員が都度、清掃を心がけている。</li> <li>・夏には東側の日差しが強いのでゴーヤを植えてグリーンカーテンをした。ゴーヤの成長が楽しみになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員寮として建設された建物で、収納スペースが少ないが、備品の片付けには工夫されている。</li> <li>・各所に入居者の習字や絵などが整然と展示されている。また、家族や近所の住民からいただいた花や植物が適所に配置され、季節を感じる事ができる落ち着いた空間づくりに心がけている。</li> <li>・音楽好きの人の傍にはCDプレイヤーが置かれて好みの音楽が楽しめるようにしている。</li> </ul>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブル席は入居者同士の関係を活かして案内したり、レクリエーションを行う時にはしたいことによって自由に席の移動を行っている。皆で楽しむ空間と共にソファで一人くつろいだり、テレビを見たり、新聞や本を読んだりと自分の楽しみが持てる時間がある。お一人お一人のこうした居場所を大切にしていけるために職員は常に見守りと関わりへの配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇をおいておられる方がある。畳の上に布団を敷いて寝ておられる方もあり、これまでの生活の継続を大切にしている。 ・居室にご家族の写真をたくさん貼って、お孫さんの成長やご家族との繋がりを大切にされている。 ・ご自分の作品を飾っておられる方もあり、これまでの生活の豊かさを感じてさせて頂いている。	グループホームでは珍しい2部屋続きの居室があり、一人ひとりの趣味を生かした生活空間になっている。 ・居室は家族や職員と一緒に整理整頓し清潔で、自宅に暮らしているような雰囲気が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の出入り口や廊下には手すりが設置されている。立ち上がりやふらつきなどを予防し、安全に過ごしてもらっている。 ・居室入り口はスロープ状になっており、滑り止めにて転倒予防をしている。 ・トイレや浴室の掲示をしてわかりやすくして安心感に繋げている。 ・感染予防として手すり等の消毒に努めている。		